

国立天文台周辺まちづくりアンケート(いのちが大事)、

および、いのちが大事市民の声を聴くつどいにおける意見、集計報告。

2022年5月25日
いのちが大事 野村羊子
嶋崎英治
伊沢けい子

◇はじめに

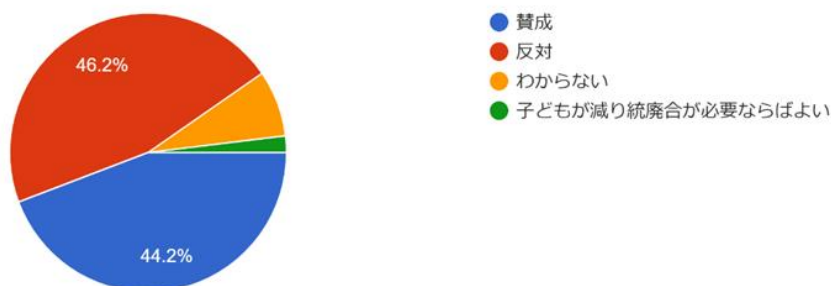
アンケートは3/20～4/20の1か月間行った。4万5千枚の新聞(朝日、東京、日経、毎日読売各紙)折り込みおよび、大沢1～6丁目及び野崎3丁目の約5000戸にポスティングを行った。アンケートの回答は52件。うち37件がインターネット上からの回答であり、FAXが7件、郵送・手渡しが8件だった。つどいには、会場参加とオンライン参加をあわせて30人の参加があった。ネット回答を設定したことにより、30代40代からの回答が3割を超えた。

円グラフの数字はアンケートによる回答を集計したもの。理由等の声は、その他や自由記述欄への回答、及びつどいでの発言を含めて集約している。

◇アンケート結果のデータ

1. 国立天文台北側敷地開発について

1) 国立天文台北側敷地開発について。 1-1 羽沢小学校の移転について、どう思いますか
52件の回答



賛成は44.2%、反対46.2%、わからない・その他が9.6%。

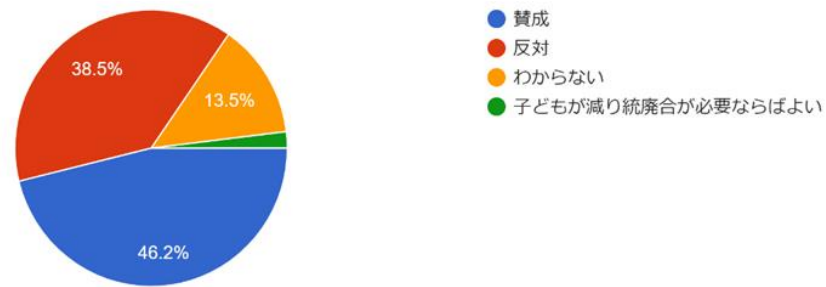
年齢別、居住地別にクロス集計しても、どのレベルでも賛否がほぼ拮抗している。

賛成の意見は24件。上げられた意見は、老朽化と防災・浸水への心配が大半を占める。加えて、子育て施策の充実を求める声も複数あった。

反対意見は19件。移転によって通学距離が長くなること、子どもたちの負担が大きくなることへの懸念が多い。また、羽沢小学校の小規模さと自然豊かな環境、落ち着いた環境を長所としてそれを失いたくないとするものも複数見られ、周囲と語らい熱い思いをしっかりと書かれた意見もあった。

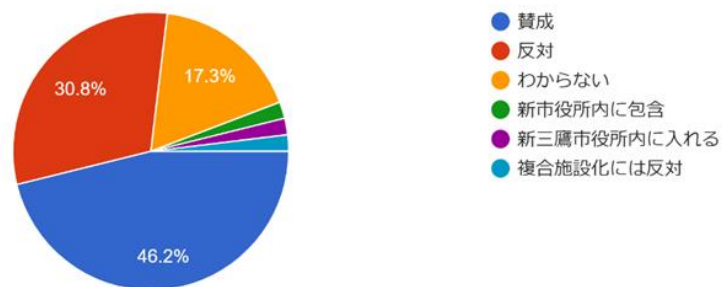
さらに、開発より天文台のみどり・自然を守ることを大事にしたいという意見も多くあった。

1-2 大沢台小学校の移転、羽沢小学校との統廃合について、どう思いますか
52件の回答



賛成46.2%、反対38.5%、わからない13.5%、その他1.8%。わからないとした人の多くは、通学距離が延びることを懸念しており、実際の賛否は拮抗しているとみられる。また、2つの小学校の校風の違いを上げて、統合に懸念する声があった。

1-3 大沢コミュニティセンターの移転、複合施設化について、どう思いますか
52件の回答



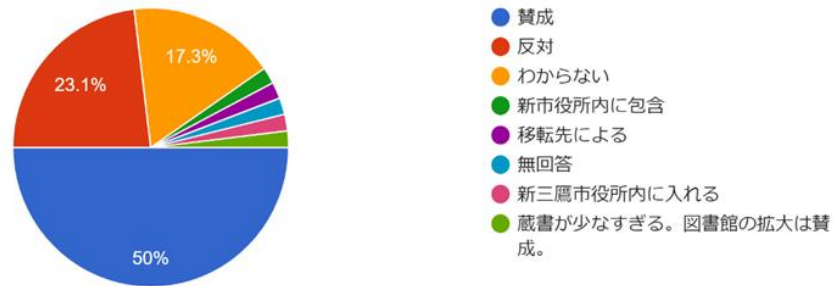
賛成46.2%、反対30.8%、わからない17.3%、その他5.7%。

賛成意見は施設を一新することで使いやすい施設を望む声、子育て世代や若者が使いやすい施設を期待する声がある。また、老朽化対策が必要とする声もあり、羽沢小の移転ではなく、大沢コミセンを移転すればよいとの声があった。

反対意見は、坂の下に公共施設がなくなることへの不安、懸念等で、これらの声は根強くあることを感じさせられた。

1 - 4 西部図書館の移転、複合施設化について、どう思いますか

52 件の回答



賛成50%、反対 23.1%、わからない 17.3%。その他 9.6%。
図書館の蔵書数など質の向上を求める声がある。移転に関して特に強い意見はない。

1 - 5 西部市政窓口の移転、複合施設化について、どう思いますか

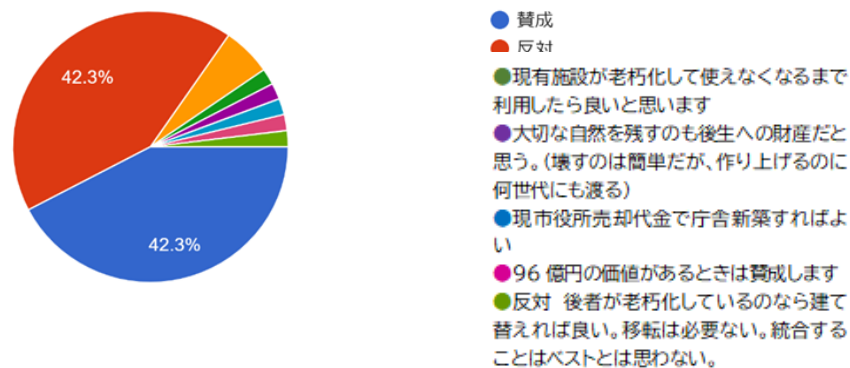
52 件の回答



賛成48.1%、反対23.1%、わからない17.3%、その他11.5%。
特に言及する意見はなく、羽沢小移転等の賛成者が、そのほかの施設の移転等にも賛成している傾向がある。

2) 天文台周辺の計画には、4.8haの用地の... 今、このような計画を行う事をどう思いますか

52 件の回答



賛成42.3%、反対42.3%、わからない+その他15.4%。
合わせて31件の自由記述があった。

賛成は、老朽化対策が必要とする一方で、計画的に進めることの必要性や、維持管理の費用負担の懸念の声がある。

反対は、自然・環境、緑の保全を求める声が多い。また、複合化より分散化を望む声、財政負担を懸念する声もあった。

2-2)三鷹市の事業として優先してやるべき事業は何だと思えますか

31件の様々な意見が寄せられた。

やはり、自然を守り緑を残すことを求める声多かった。

ついで、子ども・教育に関わることが多く、介護や高齢者福祉に関するもの複数あった。障がい者、生活困窮者施策を求める声、コミュニティづくりを求める声もあった。住みやすい街を求めていることがわかるものが多かったといえよう。

また、市役所そのものを天文台北側に移転させる提案や、天文台北側ではなく坂の下に公共施設の集約を求める声もあった。

3)その他、市政に関することにご意見等あればお書きください。

24件の意見が寄せられた。

ケアを軸にした街づくり、孤立、引きこもり防止の居場所づくりと同時に、コミセンによる都市化型コミュニティの次のあり方をしめす、という福祉施策を求める声が多かった。

施設に関しては、公共施設の複合化案は問題とする声。老朽化した学校改築など、今ある施設の活用を求める声。そして天文台敷地には高層建築はつぐらない、天文台周辺の環境を守る、箱モノではなくドッグラン・アスレチック等自然を活かした施設を求める声などがあつた。

一方で、都市計画道路の実現、人見街道の拡幅、そしてコミュニティバスの増便や、天文台敷地内の通路を求める声があると同時に、公共施設の駅前再開発地域への集約を提案する声もあつた。

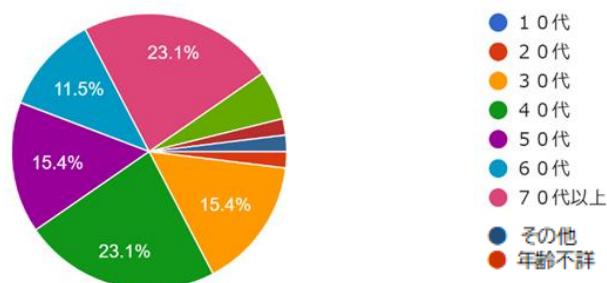
住民のための行政を求め、さらに市民の声を聴く姿勢が重要だとする声もあつた。

野川でのかもの餌やり禁止の周知を求める声があつたことも追記しておく。

4)回答者の属性

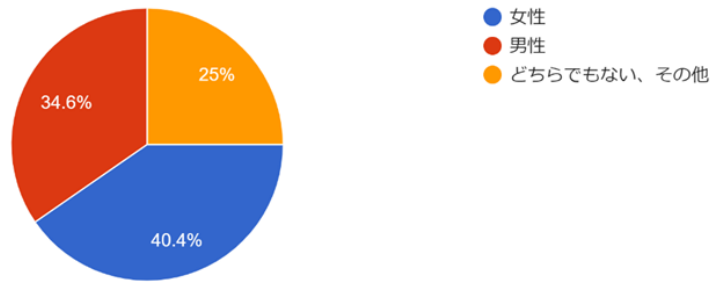
あなたについて、よろしければ、以下お答えくださ...たくない場合はその他にチェックしてください)

52件の回答



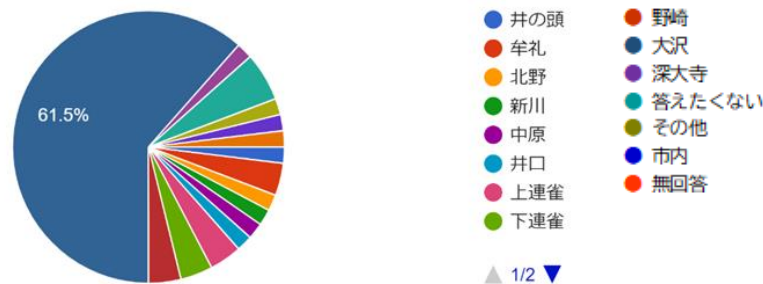
年代別では、30代40代の子育て世代が38.5%、70代以上が23.1%。

あなたについて、よろしければ、以下お答えくださ...たくない場合はその他にチェックしてください)
52 件の回答



男女比では男性40.4%。女性34.6%、どちらでもないが25%。

(答えたくない場合はその他にチェックしてください)
52 件の回答



地域別では、大沢地域が61.5%を占め、残りは各地域に散在している。

◇まとめ

今回羽沢小学校の移転、そして天文台の開発計画そのものについての賛否がほぼ同数であった。その他の設問でも賛成が過半数を越えていない。このことは、いまだ地域での議論が不十分であることを示している。

特に、現役子育て世代では、30代は賛成62%、反対38%。40代では賛成33%、反対67%。30代40代合わせるとやはり賛否が拮抗する。この回答者のうち8の割が大沢在住であり、関心の高さが伺える。

羽沢小の移転に反対の理由は、子どもたちへの負担増と自然破壊を懸念する声にほぼ集約される。スクールバス、天文台北側は過去宿舎が建っていた場所で手付かずの自然ではない、戸建て住宅の開発は望ましくないなどと市は説明しているが、その説明はどこまで市民に届けられているのか、納得を得られるものなのか。今後のより丁寧な説明・周知が必要であろう。

市が「羽沢小学校の移転を基軸とした天文台北側敷地開発」を提案した動機は、天文台敷地の宅地開発阻止であり、防災・浸水対策としての羽沢小の移転は一石二鳥を狙うのに「ちょうどいい」課題であると言えよう。

ハザードマップでの防災・浸水対策が重視され、国では、避難所となる公共施設への対策を

求め補助金の引上げ等も行っている。また、学校施設に機能を付加すること、あるいは公共施設を複合化することによる補助金制度もあり、その活用を狙った計画である。

しかし、そのような財政的・技術的な問題ではなく、市民の、特に地元に住む市民の声から課題解決に向けた検討をすすめるべきではないのか。

今回のアンケートに寄せられた個々の声の重みを受け止め、特に反対意見を寄せてくださったその思い、訴えを受け止め、市政への反映を追求したい。

「羽沢小の現地建替」案をシミュレーションし、その案も示し、市民が判断できる材料を提示すべきであることも主張していく。